

みんなで ともに 乗り越えよう

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、将来に向けたまちづくり、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。

その中で、町がどのような取組をしているのかをお知らせします。

請戸地区の災害公営住宅整備に関する協定を締結しました

8月20日、請戸地区における災害公営住宅26戸（平屋建て）および集会所1棟の整備について、浪江町と下記事業者は基本協定を締結しました。

今後、実施設計を行い、買取り方式による売買契約締結を予定しています。

完成は令和2年7月予定です。

【代表事業者】

積水ハウス株式会社仙台シャームゾン支店

【グループ構成員】

株式会社ミライト福島支店

双葉不動産建設株式会社



協定書を囲む関係者



※イメージ図は、今後変更となる場合があります。

問 まちづくり整備課建設係 TEL 0240(34)0244

町の農林水産業 再生に向けて

問 農林水産課農政係 0240(34)0245
 問 農林水産課農林水産係 0240(34)0246

東京農業大学の学生 と交流を図りました

町と東京農業大学が、農業の再生をより加速させることを目的として、今年1月に締結した包括連携協定に基づき、8月10日・11日の2日間にわたり開催された交流会。

10日には、東京農業大学の学生4人と入江准教授が町内の農家の皆さんと、エゴマの作付け作業を行いました。当日は、ボランティアも加わり、糸尺いとじきによる畝うねの計測や苗の手



作付け作業に参加した皆さん

植えなどが行われ、久しぶりにほ場に若者の声が響き渡りました。今回作付けされたエゴマは、10月末から11月中旬にかけて収穫の時期を迎えます。翌11日には、同じく東京農業大学の皆さんが、県の避難地域鳥獣対策支援員とともに有害鳥獣被害対策などの活動作業を行いました。

町は、東京農業大学とのさらなる交流を図ることで、大学が有する農業の知見を活用した6次化商品の開発をはじめとする新たな農業の構築、学生と農家の交流による担い手の確保や地域の活性化へ向けた取組を進めていきます。

相双地域農業体験 バスツアーが開催

8月31日から9月1日にかけて、相双地域新規就農・企業参入推進検討会議による、

就農希望者を対象としたバスツアーが開催されました。県外から参加した7人の参加者は、飯館村、南相馬市、浪江町において震災後に就農した生産者のほ場を視察し、作業体験や意見交換を行いました。

浪江町では、昨年から花き栽培に取り組んでいる「鈴の木ファーム」(苜宿地区)を訪れ、代表の鈴木好道さんから、就農までの経緯や就農後の技術面でのサポート体制、就農希望者へのアドバイスなどの話がありました。また作業体験では、出荷を終えたトルコギキョウの株抜きを行い、手作業による地道な作業であることや夏の時期のビニールハウス内の

暑さなどを体感しました。参加者からは、農業経営の難しさをすべて参考になったという声とともに、また浪江を訪れたいとの感想が聞かれました。



バスツアー参加者の皆さん

農業委員会だより *第25回*

農業委員・農地利用最適化推進委員 研修会に参加しました

8月下旬から9月初旬にかけて、一般社団法人福島県農業会議が県内各地で開催した農業委員・農地利用最適化推進委員研修会に参加しました。研修会では主に、地域農業の将来の在り方を明確化する「人・農地プラン」の作成に向けた、農業委員会の関わり方や話し合いの進め方などを学びました。

今回の研修で習得した知識は、町の最適な農地利用のために、農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、農業への新規参入の促進などの取組で生かし、今後も、地域の農業関係者や農地所有者の皆さんとともに、農業のさらなる発展に向けて活動していきます。



研修会の様子

農地法の許可が必要な各種申請書の
11月の申込締切日は1日(金)です。

問 農業委員会事務局(農林水産課内)
 TEL 0240(23)5706



作業場での意見交換



手作業による株抜き体験